

日本で

## 映画上映会からスタート。幼稚園児から大学生、国会議員も参加。

4月15日、84歳で小学生となったケニアの男性の実話をもとにした映画『おじいさんと草原の小学校』の上映会に220人が参加して、「世界中の子どもに教育をキャンペーン2012」はスタート。翌16日～30日、全都道府県の502校・グループ55,485人が参加して、「震災から見てきた教育の大切さ」をテーマに、日本と世界とのつながり、スマトラ島沖地震(2004年)被災地のインドの子どもの活動、途上国の教育の現状を学ぶ「世界一大きな授業」を実施しました。

映画上映会

JICA地球ひろば(東京)

小学生

燕南小学校(新潟)

中学生

扶桑中学校(愛知)

高校生

平安女学院(京都)

大学生

昭和女子大学(東京)

### 日本の子どもたちの声

- ◆同じ子どもなのに、学校に行ける子といけない子がいて、大人は何とも思わないのだろうか。
- ◆「世界一大きな授業」をやって、インドの子どもたちが全力でがんばっているのに、ぼくたちは何もやらなくてよいのだろうか、何かできることはないのだろうか、と思いました。
- ◆ODAの使い方について議論してほしい。日本のODAが子どもの教育のために使われるのがとても少ないと思います。
- ◆子どもが団結して物事を考えると問題が解決できるのに、大人の方が解決できず問題がたくさん起きるのは不思議だ。
- ◆一人ひとりの力は小さく限られていると思いますが、大勢で集まれば世界を動かすことができると思います。

### 国会議員のための「世界一大きな授業」

衆議院議員会館

4月24日は、国会議員が「生徒」になり、高校生が「先生」になる「国会議員のための世界一大きな授業」を衆議院議員会館で行いました。岡田副首相をはじめ超党派で国会議員26人が出席。高校生の手作りによるゲーム形式の授業を通して、教育を受けられない厳しさ、格差を疑似体験するなど「生徒」たちはしっかり学びました。その様子はUstreamで生中継し、インターネット配信しました。

録画をご覧ください。YouTube 国会議員のための「世界一大きな授業」で検索 <http://www.youtube.com/watch?v=wGQeolgoW7s>



世界で

## 100以上の国と地域の子どもたちの思い、ユネスコ本部に届ける。

世界では100以上の国と地域の子どもたちが、学校生活の楽しさを絵に描いたり、だれもが学校に行けるようにメッセージを書いたり、思い思いのかたちでキャンペーンに参加。5月25日にはパリのユネスコ本部に、世界の参加者から寄せられた、世界中の子どもが教育を受けられることを願う声を届けました。



スーダン

アメリカ

デンマーク

### 世界の子どもたちの声

パリでは、小学生2名がユネスコのイリナ・ボコヴァ事務局長にスピーチをしました。

「私たちは家も洋服も食べ物もあり恵まれています。幼稚園や小学校に行くこともできます。病気になれば治療も受けられます。世界中の子どもも同じように機会を与えられるべきです。世界中の子どもが危険から守られて、みんないっしょに学べて、幸せに生きられるように、世界の国々のリーダーたちに、約束を守ってくださいと働きかけてください」

### 日本の子どもたちの声を野田首相へ！

### 日本はもっと世界の子どもたちへの教育支援を！

日本では「世界一大きな授業」の後、教育支援の拡大を願う子どもたち約2万人が野田首相あてにメッセージを寄せてくれました。6月19日、子どもたちが外務省を訪問し、加藤敏幸外務大臣政務官に手渡し、政策に反映されるように伝えました。



キャンペーンを主催するJNNEは、①日本からの途上国への援助は小学校などに対して少額なので、もっと増やすこと。②紛争後の混乱のある国や、より貧しい国への援助に力を入れること、③先生の給料を支援することで教育を受けられる子どもが増えること、④豊かな国の一つとして、国際社会が取り組むグローバルパートナーシップ基金(GPE)にもっとお金を出すことを提言しました。

2013年も

みんなで参加しよう！

今も6,700万人の子どもたちが教育の機会を奪われて学校に行ける子どもは、1999年に比べて5200万人増えました。

しかし今も6,700万人の子どもたちが教育の機会を奪われ、7億5,900万人の大人が読み書きできません。世界の国々は、2015年までの初等教育の完全普及を約束しています。その約束が果たされるよう、2013年も「世界一大きな授業」を実施します。ぜひご参加ください。また、国会議員への「授業」も開催する計画です。